

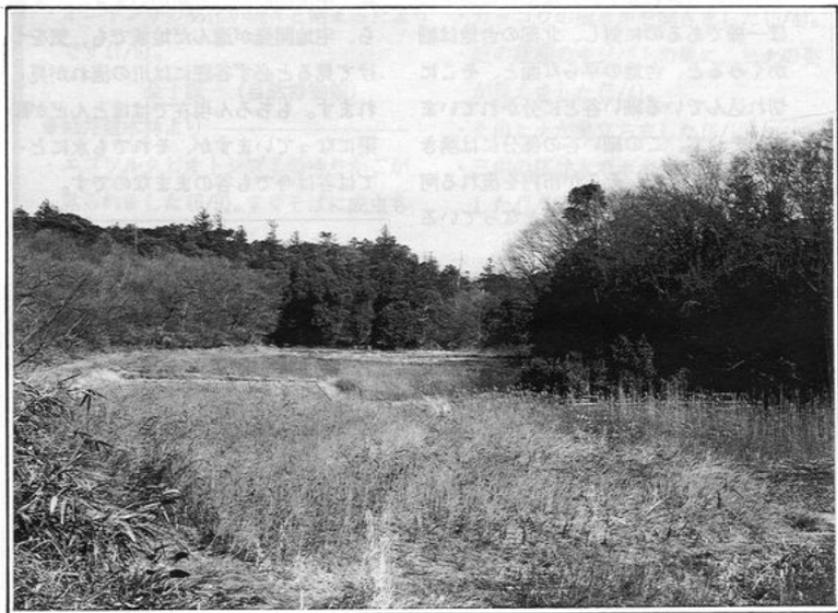
市立

2000年（平成12年）1月10日発行

# 市川自然博物館

8・9月号 （通巻63号） だより

川のⅢ『上流部』  
かんさつ



△柏井町1丁目にあった谷津（奥部）。  
新しい住宅地に生まれ変わろうとしている。

# 川のⅢ 『上流部』

市内の水系は、大きく3つ（上流、中流、下流）に区分することができます。そのうち今回は、上流部についてご紹介します。

上流部は「谷津」という言葉で代表される一帯です。台地を細かく刻むいくつもの谷が特徴で、その谷に湧き出す地下水が、川としての第一歩を記します。

## 上流部の位置

市内の水系でいう上流部とは、台地に刻まれた細い谷の部分のことを言います。市川の地形は大きく北部の台地、南部の低地に区分されますが、南部の低地がほぼ一様であるのに対し、北部の台地は細かくみると、台地の平らな面と、そこに切れ込んでいる細い谷とに分かれています。そして、この細い谷の部分には湧き水が多くあって、そこが市内を流れる河川のスタート、つまり源流となっているのです。

この細い谷は、市内の主要河川である大柏川、国分川の兩岸にそれぞれ発達しています。その数は大柏川では左岸（上流から下流を見た時の左側）に4本、右岸に5本、国分川では左岸に4本、右岸に3本です。もっとも、これらの多くではすでに宅地開発が進んでいて、谷本来の地形は見えにくくなっています。斜面に沿って残る帯状の林を通して谷の輪郭を知ることはできますが、場所によってはその林でさえも分断されています。谷底を歩いてもただ整然と立ち並ぶ家々があるばかりで、そこが谷底であることさ

え忘れてしまいそうです。

ですが、水の動きは今も昔も変わりありません。台地に降った雨はこれらの細い谷に注ぎ込み、そこから谷底の流路を経て中流部の谷へと向かいます。ですから、宅地開発が進んだ地域でも、気をつけて見ると必ず谷底には川の流れが見られます。もちろん現在ではほとんどが暗渠になっていますが、それでも水にとっては谷は今でも谷のままなのです。



図1 上流部の位置

上流部の入口（枝谷の入口）を矢印で示した。また、台地と低地の境界を示す目安を線で入れた（実際は台地と低地の境界には幅があり、必ずしも線で示すことは出来ない）。

## 上流部の自然

「谷津」という言葉で表される上流部の環境は、豊富な湧水、湿地、斜面林によって特徴づけられます。特に、湿地と林というまったく異質な環境が幅 100m 前後という狭い谷の中に共存していることは、谷津に生息する生物の多様性を高める上で重要な要素となっています。

例えば大町公園の自然観察園では、市内の野生植物の 1/3 以上の種が確認されています。これは、湿地の植物と林の植物の両方が自然観察園内に生育していることによっています。また、フクロウやカケスといった樹林性の野鳥と、カワセミやコサギといった水辺の野鳥とが同時に見られるのも、湿地と林が狭い範囲に入り組むようにしてあるからです。こういう湿地と林のコンパクトなまとまりは、中～下流部では見られない特徴です。

上流部にある豊富な湧き水は、ある種の生物にとって必要不可欠な環境となっています。たとえばサワガニは、かつて「清水がに」と呼ばれたように、市内では湧水地の周辺でのみ見ることができます。夏の自然観察園で大発生するオニヤンマも、産卵や幼虫の生活には湧水の流れが必要です。そのほか淡水性藻類のカワモツク類、魚類のスナヤツメやホトケドジョウ、二枚貝のマシジミや巻き貝のカワニナなども同様で、湧き水がある上流部でしか暮らすことができません。

一般に、川の源流という雪解け水の光景が、上流というイワナが住むような渓谷が思い起こされます。市内で見られる上流部はこういった場所とは趣を異にしていますが、水系全体で見た場合には、やはり上流部には上流部ならではの自然が形作られています。

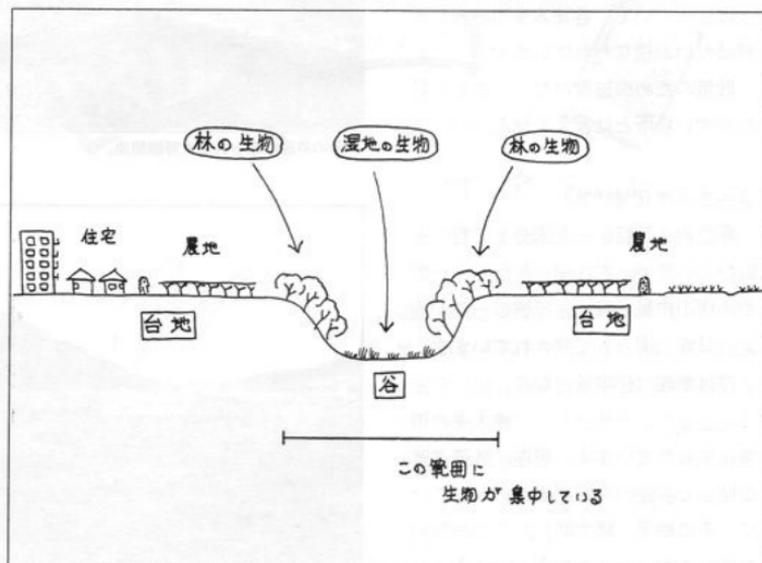


図2 上流部の環境と生物（概念図）

## 上流部の事例紹介

### 〔自然観察園（長田谷津）〕

かつて長田谷津（ながたのやづ）と称された細長い谷津で、その最奥部が大町公園の自然観察園として保存されています。上流部の環境をそのまま保存した場所としては市内唯一で、地形、景観、生物のいずれについても上流部の典型的な様子を観察することができます。

一帯は総合公園として整備されていて、訪れやすい場所になっています。

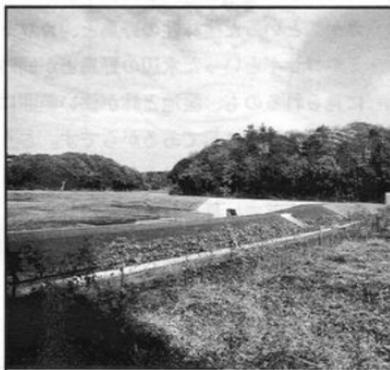


湿地の上に、園路やあずまやが整備されている。

### 〔大野調節池付近〕

大野町2丁目と松戸市との市境に延びる谷津です。ちょうど梨風苑（住宅団地）の奥にあたる一帯で、一部が大野調節池にあてられています。斜面林に囲まれた細長い谷の景観という点では市内屈指の場所ですが、谷底はかなり埋まっています。谷津本来の多様な自然はだいぶ損なわれています。

散策のための施設はなく、あまり訪れやすい場所とは言えません。



谷津の谷底に造られた大野調節池。

### 〔道免き谷津（どめきやづ）〕

堀之内2丁目から北国分2丁目へと延びる谷津で、右岸側の斜面林の一部が小塚山市民の森、左岸側の一部が堀之内貝塚公園として残されています。谷底は奥部は住宅地となり、出口の方は盛土され、全体として谷津本来の環境は失われています。現在、外環道路の関係で谷底の発掘調査が行われていて、その結果、縄文時代からの時間的な流れの中で谷津の変遷がとらえられるようになるかもしれません。



数年前の様子。右側に堀之内貝塚、左奥に小塚山市民の森が見える。



# 街かど自然探訪

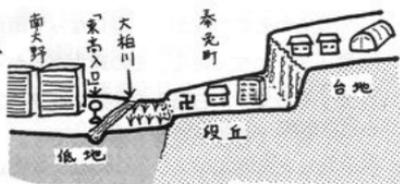
おじゃまします!

ほうめ

## 奉免町 自立たない段丘

大柏川沿いの「市川東高入口」バス停から東へ歩いてゆくと、市営住宅前の道が一段高いのがわかります。その先には高さが10mを越える崖が見えています。

台地と低地は崖が境ですが、このように川の周辺より数mだけ高い平坦面が、台地の周縁から数百m張り出すようにある場所もあります。これは、大昔の大柏川がつくった段丘です。地面は低地の土ではなく、台地の土と同じで表土の下には関東ローム層があります。



## RDB レッドデータブック

掲載種紹介



### コアジサシ



分類 鳥類 カモメ科  
ランク 絶滅危惧Ⅱ類

子育てのために日本に渡ってくる渡り鳥です。熱帯地方で冬を越し、4～6月頃渡ってきます。砂浜や中洲などの荒地に巣を作るのが本来ですが、東京湾岸ではもっぱら埋め立て地を利用しています。といっても利用できるのは開発が始まるまでの期間だけですから、結果的には、新しい適地を求めての放浪生活を強いられてしまいます。

市内では、数年前まで妙典地区の区画整理区域で子育てをしていました。

## クスノキに くっついて……



街路樹の小さなクスノキにも、そこに付着して暮らしている生き物が見られます。コケや地衣類、シダ植物（ノキシノブ）などです。これらは幹の北側ばかりで見られるのですが、「春になって雨が降るようになったら、その理由がわかった」そうです。日当たりが悪い北側の方が、総じて樹皮の乾きも悪いのです。

ささいな話ですが、そこで生きる生物にとっては一大事なのでしょう。

(情報提供：水垣麻理子さん)



## むかしの市川

このコーナーでは、博物館が1986年に行ったアンケート調査の結果から、むかしの市内の様子を紹介しています（原則として回答の原文のまま）。

- ・昭和2年頃の国分川は水がキレイで夏は水遊を良くした。フナやナマズ、タナゴが釣れた。家の前は田んぼ後は森でした。国分小学校に通う道路もなく国分川の土手を歩いたものです。（北国分町）
- ・私の家の南側の溝はきれいな水が流れていて、魚もいました。昭和3年頃。真間川は水が綺麗で透き通っていて水草もありました。水スマシ、雨ンボもいました。川辺には葦も生えていて葦切が轆の声も聞こえた（昭和2、3年）。（真間）。
- ・家のまわりは一面の水田で夏はホタル狩り冬はスケート、凧あげ等が出来ました。江戸川では夏は水泳、舟遊び、白魚取り、釣り等自由に出来ました。昭和8～11年頃。（下新宿）

わたしの  
**観察** ノート  
 No.45

◆自然観察園より

- ・ハンノキの樹上を飛ぶミドリシジミが見られました(6/8)。
- ・カブトムシが姿を現し、樹液を吸っていました(6/11)。近くにはノコギリクワガタもいました。
- ・モンキアゲハが飛んでいました(7/30)。

清野元之(自然博物館)

- ・フクロウの幼鳥が見られました(6/14)。
- ・ウツボグサが咲いていました(7/1)。
- ・オニヤンマの羽化が続々と始まったようです(7/6)。

金子謙一(自然博物館)

◆柏井雑木林より

- ・エゴツルクビオトシブミのゆりかごが見られました(6/9)。すぐそばに成虫もいました。
- ・アカシジミが見られました(6/9)。雑木林の樹上を舞い、クリの花で蜜を吸っていました。

金子謙一

◆里見公園あたりより

- ・セミの声を、今年はじめて聞きました。  
 ニイニイゼミ (7/5)  
 ヒグラシ (7/8)  
 ミンミンゼミ (7/15)  
 ツクツクボウシ(7/30)  
 アブラゼミ (7/30)

- ・アケビコノハの成虫が、家の中に飛び込んできました(7/5)。また、庭のムベに、アケビコノハの大きな幼虫がつかっていました(7/29)。

- ・ナナフシを見ました(7/29)。いちいち考えながら歩みを進めるように、長い足を一本一本だして歩いていました。春(4/27)には、子どもも見ました。

秋元久枝さん(国府台在住)

◆曾谷～八幡あたりより

- ・カッコウの鳴き声を聞きました(5/4)。
- ・庭の藤棚のキジバトの巣に、ヒナの姿が見えました(5/4)。
- ・そのヒナが巣立ちました(6/13)。
- ・三中の桜並木でホオジロの声を聞きました(7/15)。

水垣麻理子さん(八幡在住)

◆鬼高より

- ・真間川の鬼高橋の下に、ボラのこどもがたくさん集まっていました(7/2)。

松丸さん

◆行徳橋付近より

- ・ヒヌマイトトンボの未熟な成虫が見られました(6/24)。数は多くありませんでした。

金子謙一

◎6月中旬に梅雨入りし、7月下旬に明けました。ちゃんと雨が降りました。



# 行 事 案 内



§ 申込の必要な行事です §

## 自然観察会

- 親子コース…親子向けの内容で、楽しみながら自然に親しみます。  
定員 先着10組
- 一般コース…大人向けの内容で、じっくりと観察し、分類や環境などについて  
わかりやすく解説します。 定員 先着20名

テーマ	コース	日 時	場 所	受付開始
長田谷津の冬	親子コース	2月12日(出)午前	大町自然観察園	1月15日～
	一般コース	2月13日(日)午前		
冬の野鳥	一般コース	3月12日(日)午前	北国分周辺	2月19日～

## 〒申し込み方法

往復はがきに参加者全員の住所、氏名、年齢、電話番号、行事名と参加したいコース名を明記の上、自然博物館までお申し込みください。

§ 申込の必要はありません § 直接会場におこしください。

## 自然講座

自然の様々な話題を紹介する室内講座です。

- 時間 午後6時～8時
- 会場 市民談話室 (国道14号線本八幡交差点そば)
- 内容
  - 1月22日(出)「市川の山野草# 8 トウダイグサ科～マメ科」金子謙一
  - 1月29日(出)「市川地層紹介—東京軽石層」宮橋美弥子
  - 2月5日(出)「市川の昆虫# 1 ハチ類」小川晃
  - 2月12日(出)「市川の昆虫# 2 蝶類①」清野元之

## 柏井散策会

市内で一番大きな雑木林を散策しながら、四季の自然を楽しみます。  
申し込みは必要ありません。はじめて参加される方は、事前に博物館にお問い合わせください(交通手段等ご案内します)。

- ・日時 毎月第3土曜日  
午後1時30分～3時
- ・毎回のご案内は、毎月第2土曜日発行の『広報いちかわ・施設ガイド』をご覧ください。お気軽に博物館までお問い合わせください。

市立市川自然博物館だより  
第11巻 第3号 (通館第63号)  
発行日/平成12年1月10日  
編集・発行/市立市川自然博物館  
〒272-0801 千葉県市川市大町284番地  
☎047(339)0477  
<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/nature/>